解説・報告

獣医師の就業環境の未来を考える
―すべての獣医師が働きやすい職場づくりに向けた取組（V）―

獣医師として人生を歩むとき

大門由美子[†]（(公社)福井県獣医師会 副会長）
橋詰仁美　　（(公社)福井県獣医師会 理事）

左から大門由美子，橋詰仁美

私，大門は昨年から日獣の委員会「女性獣医師活躍推進委員会」のメンバーに入れていただき，さまざまな場所で活躍しておられる先輩方とお近づきになる機会を得ることができました．それまで，特に性別を意識して活動したことがなかったと，自分では思うので戸惑いもありました．しかし，福井県獣医師会内で女性の委員会を作る準備をしましょうと，もう一人おられる女性理事に持ち掛けましたら，即答で了承し動き始めてくださっています．彼女は公衆衛生部会に所属する県職員です．伴侶が動物病院を営んでおられるため，恐らく開業と公務員としての業務両方に理解があると思われます．日獣の委員会の先生方がいわれるように，公務員の獣医師はまだ制度に守られているということですが，それでも，実際，県職員としての獣医師の数は常に不足しており，非常に少ない人員で多くの業務をこなさねばなりません．また，入職してもすぐに（ほぼ1年以内に）退職する獣医師が続出しております．女性獣医師が多くいるとは言え，特に公衆衛生分野では配属先に獣医師が一人だけ，などと男女関係なく，やや新人には働きにくい環境も悪循環となっているという意見もあります．給与の引き上げを要求して少しずつよくなっているようですが，それでも働き手が来ないし続かないというのはどういうことなのでしょう．

私も結婚して福井へ行くまで，たった2年間でしたが福岡県筑豊家畜保健衛生所に勤務しました．しかし結婚という人生の大きな岐路に立った私は，両親の助言を仰ぎ，それをよりどころとして，さまざまな形で引き留めてくださった家保の所長や皆様に心から感謝しつつ，やっとこれから戦力になるという段階で福岡県を辞しました．それから夫以外知り合いのいない土地で，夫と動物病院を開業しました．小動物臨床の現場では獣医師としての仕事以外（スタッフの調整や経理）もやりながら，CAPP活動や学校での動物飼育支援，獣医師会の活動に取り組んでおります．さまざまな社会活動に参加する中で，2年間の公務員の経験は私の獣医師としての生き方に大きな影響を与えました．息子がまだ幼かった頃には，獣医師関係のセミナーやイベントは可能な限り息子を連れて行きました．「誰も皆最初は子どもだったんだから！」と開き直っていたかもしれません．面と向かって異論を唱える方がいなかったのをこれ幸いと，やってみたいことをぼちぼちと追及する日々です．

でも，誰もが私のように理解あるパートナーや仲間，環境に恵まれているわけではありません．こんな私にも悩みがあるように，誰もが自分なりの考えや悩みを抱えています．とりわけ，社会を作る生き物であるが故の人としての問題や性差に関わる新しい知見が，最近では大きく認識されるようになってきました．獣医学科の女子学生が全体の7割を占める今，動物の専門家ならではの視点からの性差を超えるような社会作りへの模索が始まっています．福井県獣医師会でも女性が3割近くになりました．これから，もう一人の理事と一緒に活動を開始します．

ここからはその理事がバトンタッチします．

私は前述でご紹介いただいたとおり，福井県職員で保

† 連絡責任者：大門由美子（(公社)福井県獣医師会）
〒910-0003　福井市松本3-16-10　福井県職員会館ビル　☎0776-28-1244　FAX 0776-28-1255
E-mail : fukuijuu@angel.ocn.ne.jp

健所に勤務する獣医師です．経歴を申し上げます．大学を卒業するまでは北海道に住み，その後京都市内の動物病院に一年半あまり勤務した後結婚を機に福井県に来て公務員として働き始めました．私の住んでいる小浜市は福井県でも京都府に近いところで，海，山，川，畑に囲まれ自然豊かな田舎町です．今では動物病院もたち並ぶようになりましたが，私が住み始めた頃は診療を行っている動物病院はありませんでした．いつかは開業という夢もあったのですが，さすがにいきなりは資金もなく，何より土地勘がなかったのでまず公務員として働いて地元の人の感じを掴んでからでもいいと思い，がむしゃらに働きだして気が付いたら29年経っていました．開業という夢はかなえられませんでしたが，農業共済組合に勤務していた夫（獣医師）が26年前に開業しました．その時一緒にやらなかったのは田舎なので動物病院に獣医師は一人で十分だと思ったことと，夫とは同じベクトルではなく仕事のうえでは違うベクトルを向いていきたいと思ったからです．

公務員になった頃に話を戻します．保健所は医師，保健師，薬剤師，栄養士，獣医師，事務職等いろんな職種の職員が人の健康を守るさまざまな業務を行っているところで，職場自体は女性が多い職場ですが，私が所属する環境衛生課は，公務員となった当初（平成6年頃）は男性職員ばかりで，「福井県で女性の食品衛生監視員はあなたがはじめてです」といわれました．まわりからは，「男性ばかりで大変でしょ」とか「女性で環境衛生課にいるなんてすごい」といわれましたが，上司の方々に親切にいろんなことを教えていただき，受け入れてもらえたのでとても感謝しています．その時の上司に後年「私が入った時に最初気を遣ってもらってましたよね」と聞いたことがあって，その時に「気を遣ったのは半月ぐらいだったかなあ」といわれたので案外野放し状態だったのかと思ったものです．私の場合は臨床から公衆衛生に仕事がかわったことで，今までのことは役に立たないかもしれないと考えたりもしましたが，獣医師の知識を活用しながら，食品関係営業者の講習会の時には食中毒のことなどをできるだけわかりやすく説明したり，動物病院に連れてくる飼い主さんに応対するように事業者の方にもやさしく説明するとか，子どもが生まれてからは子どもの扱いに慣れたせいか保育園に食品衛生の紙芝居や手の洗い方の教室をするため訪問したり，プラスの面ばかりではないと思いますが，自分にできることを何かみつけてやってみたら意外とうまくいくことも多かったのではないかと思っています．

しかし現代は，DXの推進等に伴う業務の複雑化，多様化，新型コロナウイルス感染症からの人間関係の希薄化が原因なのか福井県でも入職した後しばらくして退職する職員が相次ぎ県獣医師会内でも話題になりました．昨今，獣医学生はインターンシップで職場体験を経て就職される方も多いと聞きますが，実際に働いてみると経験のないことばかりで，学生時代とはかけはなれた環境に置かれスキルが生かされていないと悩んでいる方も多いのではないかと思います．職場は人と人，そして動物とのつながりの中で一人の人間として成長できる舞台と考えていただきたいです．職場を辞めたいと思っている方には，決して一人で決断せずまわりの人の意見も聞いて，今まで経験させてもらったこと，支えてくれた人に感謝をしながら真摯に今後のライフプランを考えていただきたいと思っています．

さて大門先生のお話にもあったかと思いますが私たちがこれからやろうとしていることを説明します．公益社団法人福井県獣医師会は会員数128名（令和5年3月末現在），そのうち女性の会員数は31名です．全体の約四分の一が女性会員となり，私の入会した時（平成6年）よりも女性比率が高くなっています．しかし女性会員同士の交流は仕事の関係で交流がある人以外ほとんどありませんでした．また，女性獣医師は県外出身者も多く，就職，結婚などで福井県に来ています．さらに動物病院に勤務する臨床獣医師，公務員獣医師，既婚，未婚，子どものあるなしなどそれぞれ置かれている立場がさまざまですが，これまでいろんな悩みを抱えながら乗り越えた方，今まさに悩んでいる方もいると思うので一度集まり女性獣医師をとりまくさまざまな問題について話し合い共有することで，キャリア形成の一助となることを期待して「福井県女性獣医師の集まり」を企画しました．何人集まってもらえるか不安ではありますが盛り上げることができるよう尽力したいと思います．この会が軌道に乗った時もう一つ期待したいことがあります．今後のことを考えると現在世界では人口の増加が問題となっていますが，反対に日本では少子化が問題となっていて今後は就業人口がさらに減少することが予想されます．福井県では公衆衛生獣医師も豚熱が発生した時には防疫作業に参加したり，鳥インフルエンザの発生に備えて防疫訓練に参加したり，獣医師不足のため業務も多様化してきました．さらには地球環境の悪化や輸送手段の発展により，今後新型コロナウイルスのような感染症がまた発生するかもしれません．新興感染症のほとんどが動物由来感染症なので，発生した時には臨床獣医師も診療だけでなくワンヘルスの取組として，防疫作業への協力，施策に対する助言など獣医師の役割は多方面で重要になってくることも考えられます．人と動物をとりまく環境問題についても女性獣医師同士で情報共有してネットワークを構築し，人と動物の共通感染症のパンデミック発生時には女性獣医師同士は顔見知りなのでスムーズに協力しあえるようなしくみをつくっていけたらと思います．